

南仏事件情報（４月分）

（１）テロ、反社会的活動、大規模デモ（邦人被害なし）

● バス爆破事件容疑者拘束（２２日、オート・ガロンヌ県）

２２日、今年１月にトゥールーズで市バスの運転席付近に置かれたガスボンベが爆発した事件に関し、１７歳の男子高校生が容疑者として拘束された。調べによると、容疑者は事態の重大さを予想していなかった模様。

● イスラム過激派とみられる男性逮捕（２５日、ブーシュ・デュ・ローヌ（BDR）県）

２５日、マルセイユ８区に住んでいる男が、詐欺容疑で逮捕された。男は、午前４時、サングラスをかけフードを被った姿でATMを利用したことから当局の目を引き職務質問を受けた。男の自宅からは、３０数枚の盗難カルトブルーや２０数台の携帯電話が発見された。また、偽造マニュアルやテロリズムに関する本があった。さらには、シリア向けの資金援助に関する可能性のある文書も発見された。情報源によると、仏南西のジハードのリクルーターと接触していたことから、仏情報機関からマークされていた。司法関係者によると「容疑者はジハードの支援者であり、金銭的支援者であるように思われる。」とのことである。ある司法官は、「これはスリーピング・エージェントであり、群衆の中に紛れ込んでいるテロリストと同じものだ。」と言及した。

（２）殺人（邦人被害なし）

● バイク泥棒を撃退した男性が復讐の被害に（６日、BDR県）

６日２２時３０分ごろ、マルセイユ１３区のバーで、２４歳の男性が殺害された。

この数日前、被害者は父親のスクーターを盗もうとしている窃盗団を発見し、殴り合いになった。その後、６日夜、被害者がバーで精算をしていた時、仮面をつけた２人の男がバーに侵入し、被害者を銃撃した。銃器の口径は２種類あった。被害者はただちに病院に搬送されたが、翌１時１０分に死亡した。

● 警察官殺害事件 — 被疑者が法廷に（１３日、エロー県）

４月１０日午後、アヴェロン県で道路検問をしていた警察官に車で衝突して殺害した２７歳の運転手に関する裁判で、１２日、モンペリエの

法廷において予審開始が決定された。検察官は「被害者が警察官で公職執行者だったことから、『故意による重殺人罪』が適用された。求刑は終身刑で、被告人は勾留状が出されて収監されることになる。」と説明した。

- 街の入り口で9mm弾により殺害（19日、BDR県）

19日18時30分ごろ、マルセイユ15区で、34歳男性が車の中で殺害されているのが発見された。殺人犯は2人で、ルノーのカングーに乗っていたと推定されている。被害者は3発の弾丸を受け死亡した。犯人が使用した車は、同じ15区内で発見された。

- 男性が車の中で殺害される（20日、BDR県）

20日、オーバニュで、43歳男性が車の中で銃弾11発を浴びせられ死亡しているのが発見された。目撃者の女性は「銃声が5回して、黒くて大きな車が走り去った。」と述べた。

使用された銃は、9mm口径の自動小銃と猟銃の2種類で、捜査関係者は「最初の銃撃は自動小銃で車の中からなされ、その後犯人は車から降りて猟銃でとどめを刺したと思われる。」と明かした。

情報筋によると、被害者はかつては犯罪組織の一味で武器を所持していた。

- 血の海で2名死亡（26日、BDR県）

26日5時過ぎ、マルセイユ14区において、カラシニコフで武装した2人の強盗が食料品店を襲撃した。被害者はカウンターの奥と中二階で発見され、2人は死亡、1人は重態だった。

被害者の店は、一年ほど前から開店していた。被害者らは、運転免許証の偽造や麻薬使用により警察から知られていた。

(3) 傷害（邦人被害なし）

- ナイフで刺された女性、生死をさまよう（5日、BDR県）

5日（日）18時前、マルセイユ14区において、22歳の女性がナイフで胸を刺された。女性は直ちに病院に運ばれたが、容態は極めて悪い。事件に関し、同じ地区に住んでいる17歳との視線のやりとりがケンカの原因になり、命の危機を呼ぶことになったと考えられている。

(4) その他特異事件等（邦人被害なし）

- 80の墓が盗掘される（15日、タルン県）

15日午後、タルン県カストルにあるサン・ロッシュ墓地の墓80基が破壊された。犯行現場には犯行声明や落書きなどはなされていなかった。墓穴は掘り返されなかったものの、十字架が引き抜かれ墓碑が破壊された。この犯行は、昼食から戻ってきた警備員が発見した。

● 1時間で40人の客 - カナビス密売（20日、BDR県）

20日、マルセイユ14区で、警察による麻薬密売組織に対する大規模な摘発が行われ、大麻樹脂3kgや猟銃などが押収された。捜査関係者によると、この摘発のために1ヶ月に及ぶ内偵が行われ、組織の全貌が明らかにされた。摘発された組織は月11万ユーロの売り上げがあり、1時間あたり40回もの取引があったとされる。容疑者の多くは起訴された。現場は、北部マルセイユの麻薬取引の要衝となっているが、警察による摘発が行われるのは初めてのこと。

※ ここに掲載した事件は新聞等の公開情報を基にまとめておりますが、掲載した事件以外にも日々各種事件が発生していることを申し添えさせていただきます。